

外国史 I

担当教員 藤波 潔

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考 日文・英米以外

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

現在の歴史教育では、諸地域間の交流を通じた歴史理解が求められており、社会科教員は国家の枠組みを超えた「世界史的な視点」で歴史を理解し、伝達する能力が必要である。そこで本講義では、19世紀～20世紀初頭の極東国際関係史を取り扱い、日本史・世界史といった枠組みを越えた広範な視点に基づく時代の理解、教員になるために不可欠な歴史知識の習得、「世界史的」な「歴史の考え方・理解の仕方」の育成を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	東アジア国際秩序の変容①
3	東アジア国際秩序の変容②
4	東アジア国際秩序の変容③
5	東アジア国際秩序の変容④
6	諸列強の極東進出①
7	諸列強の極東進出②
8	諸列強の極東進出③
9	諸列強の極東進出④
10	日清戦争と国際政治①
11	日清戦争と国際政治②
12	日清戦争と国際政治③
13	日露戦争前の極東地域①
14	日露戦争前の極東地域②
15	日露戦争前の極東地域③ ※ 16回目に前学期末試験を実施する
16	

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。
 ② 本講義を履修するための前提条件はない。 ③ 出席は毎回必ずとる。
 ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。
 ※抽選となった場合は、4年次より優先して選抜する。

【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

外国史Ⅱ

担当教員 藤波 潔

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

高等学校の地理歴史科教員は、多面的な歴史理解能力とともに、歴史事象に対するより深い専門的知識が求められる。とりわけ、「世界史A」設置の趣旨や指導要領の改訂の方向性を鑑みた場合、近現代史理解の重要性が増している。そこで、本講義では19世紀ヨーロッパ史を取り扱い、ヨーロッパ各国の政治史の集合体としてのヨーロッパ史理解ではなく、「ヨーロッパ」地域が総体として有する歴史的特性の多面的理解、19世紀ヨーロッパ史に関する専門的知識の習得、現在との関係で歴史を考察する能力の育成を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ウィーン体制の背景①
3	ウィーン体制の背景②
4	ウィーン体制の背景③
5	ウィーン体制の成立①
6	ウィーン体制の成立②
7	イギリスの自由主義①
8	イギリスの自由主義②
9	イギリスの自由主義③
10	1848年革命①
11	1848年革命②
12	1848年革命③
13	帝国主義のヨーロッパ①
14	帝国主義のヨーロッパ②
15	帝国主義のヨーロッパ③ ※ 16回目に後学期末試験を実施する
16	

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。しかし、中学校社会科教員を目指す者も、歴史の多面的な理解のために、受講を推奨する。
 ② 本講義を履修するための前提条件はない。（外国史Ⅰを未履修でも受講できる）
 ③ 出席は毎回必ずとる。 ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。
 ※抽選となった場合は、高校地歴科免許取得希望者より優先して選抜する。

【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

憲法 I

担当教員 儀部 和歌子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

日本国憲法の概要を、具体的な事例を通して理解することを目標とします。憲法をめぐる最近の諸問題についても取り上げる予定です。というのも、今、憲法に関しては様々な議論がなされています。しかし、実際は、憲法の基本を理解しないままの議論も多くなされていると感じています。そこでみなさんには、「憲法とは何か」、また「憲法に関する基本的なことは何か」を正確に理解していただいたうえで、今なされている議論についてご自身で判断していただけるよう、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。

【授業の展開計画】

第 1 回	ガイダンス	第 2 1 回	被疑者・被告人の人権
第 2 回	憲法とは何か	第 2 2 回	人間らしく生きる権利
第 3 回	今話題の国民投票法（案）について	第 2 3 回	教育を受ける権利
第 4 回	基本的人権の歴史	第 2 4 回	労働者の権利
第 5 回	日本国憲法と明治憲法とコスタリカ憲法（?!）	第 2 5 回	統治機構の基本原則－権力分立
第 6 回	日本国憲法の基本原則①－国民主権	第 2 6 回	国会
第 7 回	日本国憲法の基本原則②－平和主義	第 2 7 回	内閣
第 8 回	日本国憲法の基本原則③－基本的人権の尊重	第 2 8 回	裁判所
第 9 回	三つの基本原則の関係（総論部分のまとめ）	第 2 9 回	憲法改正について＋もう一度考える －「憲法とは何か」
第 1 0 回	人権は誰に対して保障されているのか（1）	第 3 0 回	試験
第 1 1 回	人権は誰に対して保障されているのか（2）		
第 1 2 回	人権を制約することは許されるか		
第 1 3 回	憲法に書かれていない人権－新しい人権		
第 1 4 回	不合理な差別とは		
第 1 5 回	思想・良心の自由		
第 1 6 回	表現の自由の意味と内容		
第 1 7 回	表現の自由をめぐる諸問題（1）		
第 1 8 回	表現の自由をめぐる諸問題（2）		
第 1 9 回	職業を選び行う自由		
第 2 0 回	身体の自由と適正手続		

【履修上の注意事項】

毎時間講義終了後に講義の感想を書いていただきます（出欠点検）。3分の1以上欠席した場合、単位を認定しません。

【評価方法】

レポート、学期末に行う論述試験に出席状況を加味して行います。

【テキスト】

教科書は使用しません（講義の際にプリントを配布する予定）。

【参考文献】

「勇気の源はなんですか？」（伊藤千尋・憲法9条・メッセージプロジェクト） / 「高校生からわかる日本国憲法の論点」（伊藤真著・株式会社トランスビュー） / 「憲法入門」（伊藤正己著・有斐閣双書）

システム設計実習

担当教員 山根 俊昭

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

自然地理学概論

担当教員 前門 晃

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考 日本文化・英米言語学科以外対象

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私達の生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私達の住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。

【授業の展開計画】

- 1 自然地理学とは？地形のでき方
- 2 サンゴ礁を育む島々の気候
- 3 島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち
- 4 海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘
- 5 溶けゆく島々（石灰岩の溶食）
- 6 岩石の風化
- 7 溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト
- 8 隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ
- 9 風化物質の移動（地すべり、山崩れ）
- 10 島尻層群泥岩の丘陵

【履修上の注意事項】

講義のまとめ、講義に対する質問を書かせます。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

【評価方法】

成績評価は期末試験、出席点により行い、それぞれ70点、30点とする。

【テキスト】

使用しない（以下参考文献）町田洋・太田陽子・河名俊男・森脇広・長岡伸治（2001）：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会

【参考文献】

河名俊男（1988）『琉球列島の地形』新星図書出版/氏家宏編（1990）『沖縄の自然—地形と地質—』ひるぎ社/中村和夫・氏家宏・池原貞雄・田川日出夫・堀信行（1996）『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店

自然地理学特講

担当教員 前門 晃

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考 法学部・経済学部・社会文化対象

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。

【授業の展開計画】

- 1 河川の作用
- 2 土壌侵食
- 3 河谷地形
- 4 河床堆積物
- 5 河岸段丘
- 6 扇状地
- 7 波の作用
- 8 海岸地形
- 9 海食崖の後退
- 10 波食棚表面の変形

【履修上の注意事項】

冬休みにレポートを課す。レポートのテーマは冬休みの前の授業時間に知らせる。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

【評価方法】

成績評価は期末試験、課題レポート、出席点により行い、それぞれ50点、30点、20点とする。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

町田 貞 (1984) : 『地形学』 大明堂、河名俊男 (1988) : 『琉球列島の地形』 新星図書出版、佐藤 久・町田 洋 (1990) : 『地形学』 朝倉書店

心理学概論

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人文地理学概論

担当教員 宮内 久光

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

学習指導要領では地理Bの系統地理学的考察として、「自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化」の大項目が設定されており、「自然環境、資源」を除いた「産業、都市・村落、生活文化」が人文地理学の範疇となる。本講ではこのうち、「産業」に関して講述する。学習指導要領解説によると、地理的な見方の基本として「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。

【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性があるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。」(200-201p)としている。これを踏まえ、本講義では農業、工業、卸売小売業、サービス業に関する空間的な規則性や傾向性について、古典的な立地理論や空間理論を紹介し、それが現代の日本や沖縄の状況に理論が適合できるのか、わかりやすく論じるものである。

なお、講義では将来社会科系教師として教壇に立った場合に利用できるシミュレーション教材を使用する予定である。そしてこの講義を通して、受講生は社会科系教員として必要な「地理の見方」や「地理的考え方」が身に付くと期待される。

授業の展開計画

- 1 週目、人文地理学とはどのような性格の学問なのか。また、社会科・地歴科の地理分野で人文地理学はどのように扱われるのか。さらにその中で立地論や移動論の位置づけを論じる。
- 2 週目、チューネンの農業立地論の概要を論じる。
- 3 週目、チューネン理論の意義と日本や沖縄の農業の現状を検討する。
- 4 週目、シミュレーション教材「カリフォルニア州の農民行動」を行う。
- 5 週目、ウェーバーの工業立地論の概要を論じる。
- 6 週目、ウェーバーの工業立地論を輸送費と労働費の両面から適用事例を考察する。
- 7 週目、現代日本および沖縄県における各産業の工場立地をウェーバーの工業立地論から検討する。
- 8 週目、沖縄県からの期間工移動のメカニズムについて地域労働市場と絡めて論じる。
- 9 週目、沖縄県から期間工として移動した個人に焦点をあてて、その行動を論じる。
- 10 週目、卸売業の立地と展開について諸理論を紹介する。
- 11 週目、流通の側面から見るコンビニエンスストアの展開について検討する。
- 12 週目、シミュレーション教材「コンビニエンスストアの立地」を行う。
- 13 週目、沖縄県離島地域の特産品と流通システムについて論じる。
- 14 週目、オフィス立地の諸理論を紹介する。
- 15 週目、日米のオフィス立地について比較・検討する。

【履修上の注意事項】

登録上限数を超えても、受講を強く希望する学生は受講を認めます。
プリント学習なので、ノートは不要です。

【評価方法】

講義への出席が10回以上の者が、レポートの内容(40%)と学期末試験の結果(60%)により評価される。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

松原 宏(2002):『立地論入門』古今書院/神頭広好(2001):『都市と地域の立地論 立地モデルの理論と応用』古今書院/富田和暁(1996):『地域と産業』大明堂/その他、必要に応じて授業中に紹介する。

人文地理学特講

担当教員 宮内 久光

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

学習指導要領では地理Bの系統地理学的考察として、「自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化」の大項目が設定されており、「自然環境、資源」を除いた「産業、都市・村落、生活文化」が人文地理学の範疇となる。本講ではこのうち、「都市・村落、生活文化」に関して講述する。学習指導要領解説によると、「地理的事象はその地域でいつ頃からみられたのか、これからもみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること」（201p）としている。

【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

これを踏まえ、本講義では地形図の読図を通して、都市や村落の形態や構造について都市地理学や集落地理学の理論を現実社会に合わせて講述する。また、新旧の地形図を比較することで、地域の変容や地域の課題を考察する。生活文化については、事例として取り上げる3つのタイプの村落（砺波平野の散村集落、沖縄の平民百姓村と氏族百姓村、座間味島の村落）に居住する人々の日常生活や行動について論じる。この講義を通して、受講者は地形図への苦手意識が軽減されると同時に、中学社会や高校地歴科の教員として必要な「地理的見方」や「地理的考え方」が身につけられると思われる。

授業の展開計画

- 1 週目 人文地理学とはどのような性格の学問なのか。また、社会科・地歴科の地理分野で人文地理学はどのように扱われるのか。さらにその中で都市や農村、生活文化の位置づけを論じる。
- 2 週目 地形図を用いた図上計測（距離、面積）を行う。
- 3 週目 地形図を用いた図上計測（角度）を行う。
- 4 週目 計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する。
- 5 週目 城下町・金沢の空間形成について絵地図から読図する。
- 6 週目 城下町・金沢の都市構造と都市問題について地形図から読図する。
- 7 週目 那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する。
- 8 週目 発展途上国の都市の内部構造について論じる。
- 9 週目 都市とイメージの関係をメンタルマップにより考察する。
- 10 週目 村落の形態と分類について論じる。
- 11 週目 散村・砺波平野の読図と住民の生活について論じる。
- 12 週目 沖縄の集落の成立と形態的特徴を地形図から読図する。
- 13 週目 平民百姓村と氏族百姓村における生活文化を比較考察する。
- 14 週目 座間味島の観光化と観光行動について論じる。
- 15 週目 座間味島に嫁いだ県外出身女性の生活と自己評価について論じる。

【履修上の注意事項】

登録上限数を超えても、受講を強く希望する学生は受講を認めます。
プリント学習なので、ノートは不要です。

【評価方法】

講義への出席が10回以上の者が、レポートの内容（40%）と学期末試験の結果（60%）により評価される。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

由井義通他編（2004）：『働く女性の都市空間』古今書院／北川健次編（2004）：『現代都市地理学』古今書院／高橋・菅野・村山・伊藤編（1997）：『新しい都市地理学』東洋書林 その他必要に応じて授業中に紹介する

地誌 I

担当教員 小川 護

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域が地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌 I では、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、日本各地を比較考察を行いながら、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総説
2	南西諸島
3	南九州地方
4	北九州地方
5	中国地方
6	四国地方
7	近畿地方
8	東海地方
9	甲信越地方
10	北陸地方
11	東京
12	関東地方
13	南東北地方
14	北東北地方
15	北海道
16	

【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【日文・英米以外対象】

※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目

【評価方法】

成績評価は、数回のレポートの提出と出席によって総合的に判断する

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円

【参考文献】

青野寿郎・尾留川正平(1975)「日本地誌2北海道」(二宮書店)立正大学地理学教室編『日本の地誌』古今書院 3000円、大明堂編集部(1985)「新日本地誌ゼミナール1北海道」(大明堂)

地誌Ⅱ

担当教員 小川 護

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

地誌学は系統地理学と並んで地理学を形づくる重要な部門の一つである。本講義では、オーストラリアの地誌について学習する。必要に応じて、ビデオ、パワーポインターの利用、参考文献の紹介、資料プリントの配布も適宜行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オーストラリアの地理的概観とその歴史
2	オーストラリアの自然-気候
3	オーストラリアの自然-生物相
4	オーストラリアの地形と土壌
5	オーストラリアの産業①農業
6	オーストラリアの産業②畜産業
7	オーストラリアの産業③鉱工業
8	オーストラリアの都市地域について
9	アボリジニーと多文化主義
10	オーストラリアの交通
11	オーストラリアの教育制度・政治体制
12	オーストラリアと日本
13	太平洋の島々①自然と人々の暮らし
14	太平洋の島々①文化と産業
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。追試、再試は行わない。

【法律学科・地域行政学科・地域環境政策学科・経済学科・社会文化学科対象】

※地誌Ⅱは高校地歴科免許状必修科目である。

【評価方法】

複数回のレポート提出および出席によって総合的に判断する。なお、追試験、再試験は一切行わない。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』980円
講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

田辺裕監修（1997）『図説大百科世界地理』、朝倉書店

哲学概論

担当教員 武田 一博

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

この科目は、教職を目指す人のために、教科(中学社会科、高校公民)に関する専門的知識をさずけることを目的としています(ただし、卒業単位に組み入れることができます)。とくに高校で倫理を教える人を念頭に、授業をすすめます。内容は、ヨーロッパやアメリカの思想史を中心にします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介	17	カント
2	成績の評価について	18	ヘーゲル
3	西洋思想の特徴	19	マルクス
4	イオニア自然哲学	20	功利主義
5	ソクラテス	21	プラグマチズム
6	プラトン	22	キルケゴールとニーチェ
7	アリストテレス	23	ハイデガー
8	ヘレニズム期の哲学	24	サルトル
9	キリスト教	25	マルクス主義
10	中世の哲学	26	フロイト
11	ルネサンス期の哲学	27	構造主義
12	近代哲学の特徴	28	ポスト・モダン思想
13	デカルト	29	21世紀の思想
14	スピノザ	30	受講生の感想・評価、レポート提出
15	受講生の感想・評価、レポート提出	31	
16	前期レポートの講評		

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

【評価方法】

成績は、前期と後期のレポートで評価します。レポートの採点基準は、厳しく行ないません。出席点は、成績には考慮しません。

【テキスト】

とくに指定はしません。

【参考文献】

日本史

担当教員 吉浜 忍

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考 日本文化学科・英米言語学科以外の全学科対象

【授業のねらい】

原始・古代から現代まで通史的に講義を行うが、その時代の象徴的な事件や人物などをテーマ設定する。講義は資料や図版・漫画・クイズなどを取り入れたビジュアルな自作のプリントで行い、テーマ素材の教材化の仕方や教え方に重点を置く。同時に、歴史に興味・関心を持たせることやテーマの時代背景や歴史的意義を理解させることも目標とする。歴史の流れやその時代の基本的な歴史事項や用語を理解させると同時に教材化の視点や方法を学ばせる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	近世⑧
2	原始・古代①	18	近代①
3	原始・古代②	19	近代②
4	原始・古代③	20	近代③
5	中世①	21	近代④
6	中世②	22	近代⑤
7	中世③	23	近代⑥
8	中世④	24	近代⑦
9	中世⑤	25	現代①
10	近世①	26	現代②
11	近世②	27	現代③
12	近世③	28	現代④
13	近世④	29	現代⑤
14	近世⑤	30	現代⑥ 32 テスト
15	近世⑥ 16 テスト	31	
16	近世⑦		

【履修上の注意事項】

教職課程を受講する者のみが履修できる。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 10点
 ②レポート(歴史人物の教え方について、前期・後期それぞれ一回) 40点
 ③テスト(日本史の基礎・基本用語の記述式、前期・後期それぞれ一回) 50点
 ①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

- ①テキストとして、毎回5枚前後のプリントを配布する。
 ②「生きた教材」である実物資料を原則として毎回使用する。

【参考文献】

参考文献はテキストのなかに表記する。

法学概論

担当教員 長嶺 弘善

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

わたしたちは、法の網の目に囲まれて生活している。法は、社会における人々の行為規範として機能しており、基本的人権の尊重や統治機構の規制にとどまらず、売買・消費貸借の契約遵守から、夫婦・親子関係の保護や人の生死にかかわる問題、そして違法行為に対する制裁など、多岐にわたる。講義は、現代の法にかかわる領域全般にわたって、できるだけ具体的事例に即しておこなう。受講生が、法の一般的な目的・機能を理解することを目標とし、そして身の回りに生起する具体的問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 登録確認および導入:法現象 | 16 前期試験講評 |
| 2 六法の使い方、社会規範としての法 | 17 契約自由の原則 |
| 3 出生と法(権利能力) | 18 契約の効果と債務不履行 |
| 4 親子関係の法 | 19 公序良俗違反と不法原因給付 |
| 5 少年法 | 20 人的担保と物的担保 |
| 6 法律行為能力、成年 | 21 消費者保護の法 |
| 7 教育と法 | 22 一般的不法行為 |
| 8 在学契約、学則 | 23 生活妨害、公害 |
| 9 労働契約、就業規則 | 24 犯罪と刑罰 |
| 10 婚姻の成立 | 25 新しい犯罪立法 |
| 11 婚姻の効果 | 26 裁判と法強制 |
| 12 離婚問題 | 27 憲法の成立、国民主権 |
| 13 相続の法 | 28 基本的人権の尊重 |
| 14 まとめ | 29 三権分立、平和主義 |
| 15 前期試験 | 30 まとめ 31 後期試験 |

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

前期・後期の期末試験（論述式および穴埋め式）で評価する。出席を考慮する（1割程度）。

【テキスト】

講義にはテキストおよび六法(法令集)の2冊を必携開講時に紹介する。

【参考文献】

大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、町野朔『プレップ刑法〔第三版〕』（弘文堂）初宿正典『いちばんやさしい憲法入門〔第3版〕』（岩波書店）、竜崎喜助『生の法律学』（尚学社）

倫理学概論

担当教員 小柳 正弘

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して問題を多面的かつ根底的に検討する事をめざすものなので、この講義では講義担当者が通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりする形で「ともに考える」ことをめざす。内容としては倫理の前提となる自由の問題を、現代における自己決定の現状と課題の検討を中心に考察し、倫理の担い手となる人間がどのようなものでありうるか、そしてどのようなものであるべきかについて議論する。

【授業の展開計画】

テキストの内容をテーマに、「ともに考える」ということを授業の中核にすえる。具体的には①毎回その回の授業にかかわる小レポートを授業中に書いてもらい②何人かの学生にはそれにもとづく発言をもとめ③講義担当者も交えて質疑応答をおこなう。小レポートは各自B5Eの紙製フラットファイルにとじる。発言や質疑応答も発言記録票にその内容を発言者が記載のうえこのファイルにとじる（講義担当者が押印）。フラットファイルは毎時間回収・配布（これで出欠を確認）。小レポートは授業の素材として用いる。

1. オリエンテーション
2. 自由論の視座
3. 自由のパラドックス
4. 倫理と自由
5. 理念としての自己決定権 と 自己決定の現実
6. 自己決定権批判 と 自己決定の問題
7. 二つの自己決定 と 自己決定の原理
8. 自己決定の現状と課題についてのまとめ
9. 自我の多様性・具体性と他者の態度の取得
10. 社会過程の時間的・論理的先行（1）－ playとgame
11. 社会過程の時間的・論理的先行（2）－ Iとme
12. 生理学的基盤・身振り会話・適応的反応
13. 意味シンボルと他者の態度の取得
14. 社会的自我論における他者の問題
15. 一般化された他者 と 他者としての歴史
16. 社会的自我論のまとめ
17. 自然と人間－環境・風景・景観・風土
18. 風土と間柄的構造－和辻倫理学をこえて
19. ナショナリティからエスニシティへ
20. パターナリズムの類型と定式
21. よきパターナリズムにおける自律と「中核的自己」
22. 当事者主権－障害と自由
23. 設計問題と倫理問題
24. トレード・オフとステイク・ホルダー
25. 近代市民社会の「標準」と技術者の自己決定
26. 現代日本の自由論 と 社会的自我論
27. 「共鳴」の事実と原理
28. 「共鳴」の倫理と
29. 「私-たち」の自由
30. 人間と倫理のかかわりに関するまとめ。
31. テキストの重要概念に関するテストをおこなう。

【履修上の注意事項】

この授業は「倫理学Ⅰ」「倫理学Ⅱ」と同じテキストを用いるが、こちらは内容をきちんと咀嚼して1冊まるごと読み上げることをめざし最後までテンポよく進める（倍ぐらいの速さ）。B5Eの紙製フラットファイルを学内の売店で購入して必ず準備する（成績評価の基本となるので用意しなければ受講できない）。私語は厳禁（挙手して公に発言せよ）。質問は原則、授業中に行うこと（問題を共有してともに考えることに貢献せよ）。テキストを必ず用意すること（テキストなしでは理解できない）。

【評価方法】

授業中に行うまとめのレポート（持ち込み不可）3回、各10点、計30点
 テキストの重要概念に関するテスト（持ち込み可）1回、20点
 小レポートと発言記録票の量的な評価、50点

【テキスト】

小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』（ナカニシヤ出版）
 （「倫理学Ⅰ」（「倫理学Ⅱ」と同じテキスト）

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

情報通信ネットワーク実習

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 集中

授業形態 実験実習

単位数 1.0

【授業のねらい】

産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、見学や実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。

具体的な実習の内容としては、LANボードを組み込んだパソコン組立て、ハブやルータ等を用いたネットワーク接続、TCP/IPによるインターネット並びにイントラネット接続、ネットワーク上への情報発信、アップロード等のためのサーバー接続と情報セキュリティ設定等について理解させる。

【授業の展開計画】

- 1時限目 実習のオリエンテーション（実習の概要と心構え等）
- 2時限目 大学内LANの見学（仕組みと役割の理解）
- 3時限目 教室内LANの利用1（プリンタやスキャナ等資源の共有の理解）
- 4時限目 教室内LANの利用2（データ転送やファイルの共有の理解）
- 5時限目 教室内LANの利用3（電子メールによるコミュニケーションの理解）
- 6時限目 教室内LANの利用4（Webシステムによる情報収集・発信の理解）
- 7時限目 通信ネットワーク接続におけるLANボードの役割と実際
- 8時限目 ハブを利用したLAN接続実験（プリンタやスキャナ等資源の共有）
- 9時限目 ハブを利用したLAN接続実験（ファイルの共有、分散処理）
- 10時限目 WWWを利用したイントラネット接続実験
- 11時限目 TCP/IPによるインターネット接続実験
- 12時限目 ルータを利用したインターネット接続実験
- 13時限目 サーバーを利用したネットワーク実験
- 14時限目 通信ネットワークの運用管理システム（安全対策とセキュリティ）
- 15時限目 期末試験

【履修上の注意事項】

「情報通信ネットワーク論」を履修した者の受講が望ましい。実習は、二人一組で行ない、毎回実習レポートを提出させる。

【評価方法】

出席・実習レポートの提出等総合的に評価する。

【テキスト】

テキストおよび資料については、適宜配布する。

【参考文献】

プログラミング実習

担当教員 東 るみ子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マルチメディア実習

担当教員 中西 利文

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1.0

【授業のねらい】

本実習では、まず最初に音声や静止画像、動画の各種フォーマット、その特性を学び、次にアニメーション作成ソフトウェアを用いてコンテンツの制作を行う。作成したすべてのコンテンツをウェブ上で閲覧できるようにして、プレゼンテーションを行う。制作したコンテンツを受講者全員で評価して、その学習効果を議論・検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	音声データおよび動画データの種類・グラフィックソフトの種類
3	画像処理ソフトウェア（ドロー系、ペイント系）のデータ変換および加工作業
4	描画の基本操作
5	シンボルとインスタンス
6	アニメーションの基本
7	課題コンテンツプレゼンテーション 1
8	ボタンの構造と制御
9	ActionScript1
10	ActionScript2
11	ActionScript3
12	テキスト処理
13	外部ファイルの読み込み方法
14	課題コンテンツプレゼンテーション 2
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

この実習は、教職課程「情報」の必修科目である。マルチメディア論を履修した者のみ登録を受け付ける。教職履修者は必ず、配当年次に受講すること。

【評価方法】

基本的に欠席は認めない。作成したマルチメディアコンテンツのプレゼンテーション(2回)と出席状況を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

Flash8 デザインスクール／北川貴清／MdN

【参考文献】

開講時に指定する。

職業指導

担当教員 崎濱 秀政

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

「職業指導から進路指導へ」、さらに「進路指導からキャリア教育へ」と推移してきた社会的、歴史的背景を踏まえ、その変遷を概観し、ライフステージをとおしてキャリア教育の必要性を学ぶ。またキャリア教育の実践のための理念や基本的な考えを理解する。

【授業の展開計画】

①国内外のキャリア教育の歴史を遡り現状と課題の理解 ②進路指導・キャリア教育の目的、方法、対象、活動領域、実践、評価の理解 ③学校、教職員の役割、それに伴う関係機関の連携・協力のあり方を理解 ④ライフステージに合った発達段階、生活実態に即した指導方法の理解 ⑤経済社会の状況と雇用動向、職業安定機関の役割の理解

1週	オリエンテーション	
2週	職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開（アメリカ）	
3週	職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開（日本）	
4週	職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論	
5週	職業指導・進路指導の概念と定義	
6週	キャリア教育の概念と定義	
7週	進路指導の活動領域	
8週	キャリア教育の諸活動	
9週	進路指導・キャリア教育の組織と運営	
10週	進路指導・キャリア教育の計画と実践（小中学校）	
11週	進路指導・キャリア教育の計画と実践（高等学校）	
12週	特別支援学校の進路指導	24週 進路指導・キャリア教育のアセスメントの意味と目的
13週	個別の教育支援計画の作成	25週 進路指導・キャリア教育のアセスメントの対象と領域
14週	個別の教育支援計画の実際	26週 進路適性のアセスメント
15週	特別支援学校と関係機関の連携	27週 演習（面接）
16週	学校と家庭と連携協力	28週 演習（アセスメント）
17週	学校と地域社会との連携協力	29週 演習（会議）
18週	学校と関係機関との連携協力	30週 キャリア教育のまとめ
19週	スクールカウンセリングの性格と機能	31週 まとめ
20週	キャリア・カウンセリングの必要性	
21週	学級担任（教師）の役割	
22週	キャリア・カウンセリングの特徴、方法の留意点	
23週	スーパーバイザーの役割とスーパービジョン	

【履修上の注意事項】

教職員を目指す学生を対象とする

【評価方法】

活動の内容（授業への取り組み）	20%
演習の内容	30%
課題レポートの内容	50%

【テキスト】

特に指定はない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

進路指導・キャリア教育の理論と実践（日本文化科学社出版）